

FIT journal
Vol. 8 / 2021.May



北陸技術士懇談会

Hokuriku Professional Engineers Conference

目 次

1. はじめに
2. 令和2年度総会報告
3. 令和2年度第1回技術研修会報告
4. 令和2年度第2回技術研修会報告
5. 女性・青年委員会 女性部会報告
6. 令和2年度北陸3県内合格者名簿
7. 令和2年度(2020年度)役員名簿
8. 令和3年度(2021年度)行事予定(案)

1. はじめに

会員の皆様には、日頃より北陸技術士懇談会の活動にご理解とご協力を賜りまことにありがとうございます。この懇談会は、一昨年、設立から50周年という大きな節目を迎え、記念式典をはじめとした一連の事業を無事終えることができました。また、これを機に愛称FIT(フィット)とロゴマークを制定し、より親しみのある会として新たなスタートを切りました。

しかしながら、昨年は新型コロナウイルスの感染拡大により、本会の恒例行事の一つでもある「技術士合格祝賀会」が再延期の末、中止に至りました。また、総会も書面決議とするなど、活動は大きな制約を受け、会員相互の交流が満足にできない状況が続きました。

一方、コロナ禍はマイナスの要素ばかりもたらしているわけではなく、3密を避けるためのテレワークやフレックス勤務、サテライトオフィス勤務など多様な勤務スタイルへの転換をはじめ、WEB方式による情報共有など働き方改革にもつながりました。さらに、新型コロナウイルス接触確認アプリの開発などいろいろな分野で新しい技術開発が進みつつあるように思います。このような技術開発は若手技術者の皆さんが得意とする分野であり、より高度で効率的・効果的なものがどんどん世に生み出されてくるものと期待が膨らみます。

本会でも、若手技術者が気軽に参加し、会員相互の交流が進むよう新しい取り組みに挑戦していきたいと思っております。昨年は、コロナ禍の中でも、技術研修会を会場(参加人数を制限)とWEB配信の併用により2度開催しました。多種多様な技術、取り組み事例を紹介していくことが、新たな発想を生み、新たな技術開発につながっていくものと思っております。

また、3年ぶりに会員名簿を更新しました。技術研修会の開催と会員情報の提供により、会員相互の交流と技術力の向上につながれば幸いです。

まだまだコロナ禍で我慢の日々が続きそうですが、もともと北陸三県は雪国という地域性から忍耐強いというイメージがあり、感染拡大に最善の注意を図りながらFIT活動を続けていきたいと思っております。

北陸技術士懇談会 会長 橋本 栄治

2. 令和2年度総会報告

令和2年度 北陸技術士懇談会の総会(令和2年6月13日開催予定)は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、また、ご出席者の安全を最優先とする観点から、WEB議決としました。

■総会

北陸技術士懇談会HPより「総会資料一式」をご確認のうえ、議決フォームより6月12日までに各議案への賛否をご回答いただきました。

1. 議 事

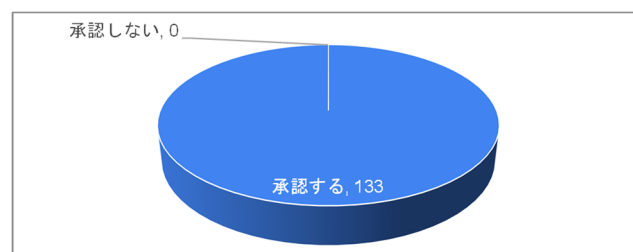
- 第1号議案 令和元年度 活動報告と決算(案)
- 第2号議案 令和2年度 活動計画と予算(案)
- 第3号議案 役員改選(案)について

2. 報告事項

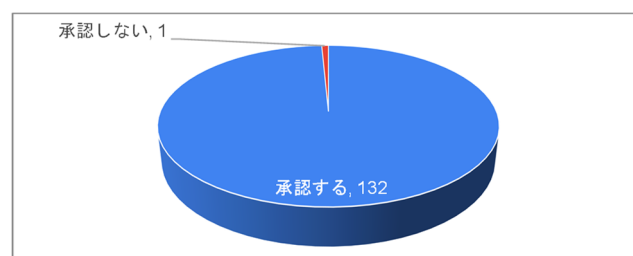
3. その他

議事については、下記の通りいずれも原案通り承認されました。

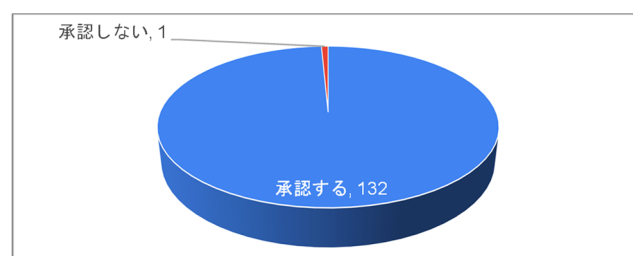
●第1号議案



●第2号議案



●第3号議案



その他の自由意見では、「毎回ご案内いただく講義は、大変興味深い話題が多いものの、業務都合等々で参加できる機会が少なく、非常に残念であり、また、申し訳なく思う。しかし、各資料や議事内容をウェブ上に開示いただくことで、都度確認することができ、大変ありがたく思う。」「社内で講演会や講習会等へ参加できない会員向けに、講演会や講習会を動画等で閲覧できる事が可能であれば御検討いただければと思います(閲覧料は徴収し活動原資に充てていただきたいと思っております。)」といった意見もありました。なお、回答者数は133人でした。

3. 令和2年度技術研修会（講習会）報告

令和2年9月19日（土）、北陸技術士懇談会第1回技術研修会が、金沢勤労者プラザにて、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、会場参加31名、WEB参加16名の聴講の下に行われた。

交流会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため残念ながら中止となった。

■橋本会長のご挨拶

令和2年度第1回目の技術研修会に参加いただき感謝申し上げます。新型コロナウイルスの影響もあり、全国的に大変な状況の中、例年6月に開催の総会もWEB形式による議案の審議をお願いすることとなった。

本日が今年度最初の活動となり、7月下旬から準備を進めてきたが、北陸3県において感染者増加の第2波が押し寄せる中、ギリギリ開催できるか一喜一憂する毎日でした。直近1週間で3県とも人口10万人あたりの感染者数2.5人の指標を下回り、無事に開催の運びとなった。感染防止の観点から会場の定員を半分以下とし、並行して初のWEB形式での聴講を試みることにした。本懇談会は技術研修会が活動のメインであり、本来であれば研修会後の交流の場を設けたいところではある。しかし、今回は時節柄、残念ながら中止としたが、さまざまな分野の技術士からの3件の講演を聴くことで有意義な時間としていただきたいと挨拶された。

■講演内容

講演1：「廃棄物最終処分場の安定化を調査方法」
福井県産業労働部 坂井地区水道管理事務所

田中 宏和氏

（1）テクノポート福井浄化センターの特徴紹介

田中氏が勤務されている、テクノポート福井浄化センターは、工業地域（テクノポート福井）で操業する事業所の排水を処理する終末処理場である。生物で分解しにくい有機物の高度な処理技術を有し、単位水量あたりの下水道料金を汚水濃度（水質）に応じて5ランクに区分している。処理費用を払ってでも高度な処理技術と海域放流の下水道が魅力ということで、汚水処理が難しい企業の進出が多い。

（2）廃棄物最終処分場の安定化とは何か

廃棄物最終処分場は、静脈産業の「最後の砦」として最も重要なインフラである。処分場は、最終残渣の種類により、遮断型、管理型、安定型の3つのタイプに区分されるが、今後最も普及するのが管理

型といわれている。管理型は遮水シート施工などにより、廃棄物と土壌・地下水を接触させない構造となっており、「有機物分解」、「塩類洗い出し」、「塩類不溶化」により、廃棄物の安定化を進行させる。

課題として安定化の詳細について不明な部分が多いため、処分場の廃止に対して誤った判断をする懸念がある。

（3）安定化調査方法の紹介

排水（浸出水）の水質、埋立ガス排出量、地表温度、地表ガス噴出ポイント、表層部電気伝導率、表層土透気性、比抵抗、電磁調査などさまざまな調査方法について写真とグラフを元にわかりやすく解説された。強制分極法では特定レアメタルの濃集がわかり、今後廃棄物からのレアメタルの回収にも期待ができる。安定化に関する様々な調査方法があることを多くの人に知ってもらいたい。



【田中氏のご講演】

講演2：「金沢城・兼六園周辺の歴史的回遊ルート形成に向けた鼠多門橋の復元設計」

（株）国土開発センター 設計コンサルタント本部
設計事業部設計1部グループリーダー

濱田 康行氏

（1）鼠多門橋の概要

明治10年まで金沢城内の玉泉院丸と金谷御殿（現在の尾山神社）を結ぶ外堀に架橋されていた。平成7年から令和2年までの3期にわたり金沢城の歴史的文化的遺産を後世に継承する目的で、金沢城公園整備計画がすすめられ、第3期に鼠多門・橋の復元が行われた。

（2）鼠多門橋復元に向けた課題

当時は外堀だったところは、現在市道になっており、そこに橋を復元するということが様々な課題がある。耐震性確保、車を走行可能とするための橋脚スパン割り、車道としての高さの確保、石垣を保護しながらの橋台配置、地中にはガス管、電話線などが埋設されており、それを考慮した地盤改良、木材

の安全性や耐久性を考慮した材料の選定など多くの課題があった。

（3）復元された鼠多門橋の概要

橋は、金沢城側、市道部、尾山神社側で3分割することで、荷重を分散し軟弱地盤への対策としつつ、市道の部分はボックス構造として整備された。複数の地下埋設物を移設して、地盤改良も行った。橋梁本体は鋼材を用い、鋼材に固定したボルトで木板を固定、木装橋とした。木材は耐朽性に優れる石川県産の能登ヒバの無垢材を使用し、歴史的景観の復元性を重視したなど、課題をどのように克服しながら復元を進めたかについて説明をされた。



【濱田氏のご講演】

講演3：「LED照明の技術進展とその可能性」

（株）センダイ技術士事務所代表取締役

千代 和夫氏

（1）身近なあかり・光・照明

光は電磁波の一つであり、波長の違いで様々な種類が存在しているが、人間の感覚器が反応するもの（可視光）の波長幅は非常に狭い。人の目は明視と薄明視の2つのセンサでものを見ており、明視では黄色、薄明視では青色を最も認識しやすい。危険を表す色として黄色が用いられているのも認識しやすいためである。フィラメントが高温で蒸発して消耗しやすい白熱電球（寿命1,000h）、蛍光灯（寿命10,000h）からフィラメントがなく長持ちするLED（寿命40,000h）への置換がすすんでいる。トンネルなどの照明もLED化が一般化している。

（2）LED照明への直近10年の技術進展

自動車の燃費に相当する照明効率（lm/W；ルーメン/ワット）はエジソンが白熱灯を開発した1879年から蛍光灯が主力であった1996年までは、わずかな向上であった。しかし、青色LEDの開発によりこれまで存在していた黄色蛍光体との混光により白色LEDの開発が可能となり、一気に向上した。

LEDの特徴として、長寿命、直流・低電圧・省

電力、少紫外線、自在な調光・点滅、低温環境下でも明るさを維持可能などがある。用途の拡大によって、「省エネ性能」と「光の質」の向上が重要な要素技術となっている。

（3）LED照明が切り開く新しい照明

新光源LED、有機EL等の今後活用が期待される分野として、エレベータ照明、新幹線照明、農水産応用、宇宙、快眠・快気照明、植物工場がある。新幹線は2007年7月から運転開始のN700系以降、活用が進んでいる。イカ釣り漁船の集魚灯もLEDに変えることで効果が期待できるが、漁師の同意が得られず活用には至っていない。

省エネの効果として、非常口の照明を蛍光灯からLEDへ変えることで、10年間の電気料金換算で1台あたり約8万円の削減効果が見込まれる。今後はIoT化も進み、スマホを置くと個人エリアの照明設定が連動するパーソナルライティング技術や周囲の明るさに応じて自動で明るさが変わる自動販売機や看板デザインなどの技術開発が期待される。

「照明の伝道師として、照明・光・あかりの面白さをお伝えする場があれば30分でも1時間でもどんな要望テーマでも手弁当でどこへでもお出かけします」とのPRもあった。



【千代氏のご講演】



【会場の様子】

会場からはもとより、WEB形式参加の方からチャットによる質問もあり、各講演において活発な質疑応答となり、盛会で終わることができた。

（文責：石川 金子 義幸）

4. 令和2年度技術研修会（講演会）報告

令和3年4月3日（土）、北陸技術士懇談会第2回技術研修会が、金沢勤労者プラザにて、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、会場35名、WEB22名の計57名の参加で開催された。

交流会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため残念ながら中止となった。

■橋本会長のご挨拶

令和2年度第2回目の技術研修会に参加いただき感謝申し上げます。新型コロナウイルスはなかなか終息しないが、北陸技術士懇談会（FIT）としても、何とか活動したいと思う。昨年9月の第1回研修会も収容人数の半分以下としたが、今回も同様の形式をとった。また、例年は、第2回技術研修会を2月に開催しているが、これも集まる回数を少なくしようということで、役員会と合わせて開催することとした。今日は、2名の方にご講演頂くので、WEB参加の方もいるが、よろしくお願ひしたいと挨拶された。



【橋本会長のご挨拶】

■講演内容

講演1：「地域活性化へ 空き家対策の新たな取り組みに挑戦」

富山県砺波土木センター所長・一般社団法人やなぜ空き家ねっと代表理事

長谷川 徹氏

（1）富山県の人口や空き家の状況

我が国の人口・世帯の推移をみると、人口は2008年頃をピークに減少し、世帯数は2015年まで増加しているものの、2023年以降減少に転じる（推計）。また、富山県の人口推計では、2020年から2040年において、総人口1,035千人が817千人、65歳以上の高齢化率は32.8%が40.3%となり、人口減少・高齢化が進む。

一方、1968年に全国の住宅総数は世帯数を上回り、2018年時点では、住宅ストック数（約6,200万戸）が総世帯数（約5,400万世帯）に対し約16%多く、量的にも充足しているが、2013年～2018年の5

年間における新規空き家の発生も321万戸となっている。また、富山県の空き家は、2008年から2018年の10年間で7,800戸増加している。

（2）空き家対策の基本の3つの柱

①「発生予防（未然防止）」：家の将来を考えて、家族で相談し、将来の管理者（相続人）や利用の方法、解体、建替、売却などの方向性を決めておくなど準備しておく。②「適切な管理」と「早めの利活用」：相続登記を行う。老朽化を抑えるための定期的な見回り、清掃、修繕、家財整理など適切な管理を行う。劣化が進む前に不動産業者と相談し、売却等を検討。空き家バンクに登録。③「除却（解体）」：利活用（売却）が難しい、または十分な管理を続けていくことが難しい場合、解体。などがあげられる。

（3）柳瀬空き家を考える会の取り組みについて

砺波市柳瀬地区は、伝統的な美しさを誇る「散居村」である。4月下旬～5月中旬には、水田に水が入り夕日で金色に「散居村」が輝くそうである。

こうした柳瀬地区においても、少子高齢化、子供の県外への進学・就職、核家族化などの社会背景から、独居老人宅や空き家の増加が進み、散居村である旧地区は237世帯、775人で、空き家は2011年の14世帯が、2016年には31世帯となった。このままでは、自治会の安全・安心の確保や運動会、獅子舞などの実施が困難となり、コミュニティーを守ることが出来なくなる。歴史的な文化財である散居村景観が保全できなくなるので、2016年に「柳瀬空き家を考える会」を立ち上げた。

考える会では、自治振興会とタイアップして、空き家に関する情報（空き家の現状、空き家情報バンクや補助制度の紹介等）を管理者に送付し、空き家の管理者と交渉等して、空き家バンクへの登録等の要請、荷物処分等の支援を行った。2017年には、管理者に空き家に関するアンケート調査を実施、2018年には将来の空き家防止のための出前講座を開催した。こうした取り組みは、KNB、NHK、新聞等に取り上げて頂いた。その結果、空き家は2016年の31戸だったものが、2021年には18戸へと減少した。

また、2020年には、「一般社団法人やなぜ空き家ねっと」を社員13名で立ち上げた。事業としては、空き家（空き地）所有者へ地域情報の発信・相談窓口、定期巡回・維持管理、空き家情報バンク登録、セミナー

一の開催、移住者受け入れなどを行っている。

空き家対策で大切なことは、持ち主の意識を変えること。自分が変われば、周りも変わるということで、自分自身でも空き家を借りて住んでいると話された。長谷川氏は、まさに有言実行型のまちづくりの実践者であった。



【長谷川氏のご講演】

講演2：「都市の個性を伸ばすー日独の都市を比較してー」

金沢美術工芸大学名誉教授・坂本都市建築計画研究室

坂本 英之氏

坂本先生は、ドイツに留学され、その後9年間滞在された。その実体験をもとに、金沢市とシュトゥットガルト市を比較し、講演された。

(1) 金沢市とシュトゥットガルト市の比較

	金沢市	シュトゥットガルト
人口	46.6 万人	63.6 万人
総面積	469 k m ²	207.4 k m ²
人口密度	993.7 人/k m ²	3,066.6 人/k m ²
都市の性格	県都：歴史都市、景観施策	州都：企業本社、工業都市
戦災	非戦災都市	戦災都市
市民の性格	温厚、控えめ、忍耐強い	発明家精神、勤勉、儉約

シュトゥットガルト市は、ドイツの各都市の中でも地価が高い。

(2) シュトゥットガルト市の特徴的都市施策

①風の道と緑化政策：緑のコリドーネットワーク計画による大気や水の流れの制御を都市開発事業の中で実施。U字型グリーンネットワーク構想（1928年）に基づく事業。②都市核：歴史的市中心街地を核として魅力づくり。③内部開発と都心居住：緑地（農地、森林など）を保全し、都市内部の遊休地を再生。市の半分の面積が緑地化された緑の都市でもある。④シュトゥットガルト21：中央駅の改造と鉄道網を抜本的に改革する国家プロジェクト、⑤FプランとBプラン：堅牢なドイツの都市計画、まちづくりの基本。自然保護の観点からLプラン、Gプランが追加され充実した。⑥公共交通と歩けるまちづくり：歩行者・自転車優先と公共交通網の拡充。少

数の人々の活発な個別移動を支援、或いは促進。個別か公共交通かではなく、利用者にとって経済的にも快適性の上からも選択可能な公共交通。シュトゥットガルト21と関連。などがある。

(3) 景観まちづくり

景観とは、わたしたちの環境の総体に見える形（ながめ）として捉えるもの。美しい環境（景観）は、共同体の秩序のあらわれ。一般的に、持続可能性の高い景観は美しく、低い景観は醜い。

景観まちづくりとは、参加のまちづくりであり、一目瞭然と見えるものが対象なので、専門家だけでなく、市民もはっきり意見がいただけるものである。

景観を考えるための基本として、『地』と『図』があり、地は背景であり、図は主景となる。

また、都市計画とまちづくりを概念比較する。

	都市計画	まちづくり
ビジョン	成長する都市	持続可能な都市
内容	広域都市基盤整備、ニュータウン開発、大規模開発等	住環境整備、既成市街地の修復型整備、地区計画等
主体	国家、都道府県	市町村、NPO、市民
プロセス	トップダウン	ボトムアップ
市民参加	形式的市民参加	行政と市民の協働
市民活動	陳情請願型、反対運動	学習提案型、市民活動
専門家	都市計画家、建築家、デザイナー	まちづくりコーディネーター、ファシリテーター
キーワード	垂直、縦割り、中央集権、効率等	水平、パートナーシップ、分権、合意等

(4) これからの金沢に必要なこと

都市軸である南町界隈は金融街であったが、県庁移転に伴う空洞化が進み、新幹線の開業効果でホテル開業ラッシュが始まっている。単一機能から多機能の通りへ賑わいが戻り、都市の多様性が生み出される可能性がある。金沢は、「生活都市」を目指し、歩けるまちづくり、都心居住を進めるべきである。



【坂本氏のご講演】

会場からは、各講演において活発な質疑応答となり、盛会で終えることができた。

(文責：石川 埒 正浩)

5. 女性・青年委員会 女性部会報告

北陸技術士懇談会の女性・青年委員会の女性部会としてのミニフォーラムが、令和2年10月30日（土）に金沢勤労者プラザにて行われた。

1. はじめに

これまでの活動は、技術士の方のみで実施していたが、今回は、これから技術士を目指す若い方の育成と交流を目的に技術士の方による講演と意見交換会を企画した。冒頭には、北陸技術士懇談会の紹介や女性部会のこれまでの活動について報告した。

2. 女性技術士3名の講演

講演①「こんな私もここまでできました！」

高永 智恵氏（(株)日本海コンサルタント）

現在の会社に入社し、山あり、谷ありのこれまでであったが、女性区画整理士の研究会に参加し刺激を受け、一級土木施工管理技士やRCCMなどの資格を着実に取得されてきた。

「女性にも活躍の場を」と働きかけてくれた上司に恵まれたことも励みになり、管理技術者として認めてもらえるよう、技術士を取得された。

誰にも必ずチャンスは訪れるはずなので、その時には絶対に見逃すことがないようにして欲しい、プロセスに無駄なことは1つもない、そのプロセスが結果を生むとのこと、最後は自分だということを忘れずに何事にも取り組んでいって欲しい、とお話しされた。



【高永講師のご講演】

講演②「女性技術者として働く—公務員 ver. —」

正田 祈氏（金沢市役所）

大学を卒業され、バブル崩壊後であった就活時、民間企業の求人は男性のみであったことから、男女区分のない公務員試験で金沢市役所に入庁された。職場は女性が少なく、職場内外での扱いは現実的には男女平等ではなかった。

その後、結婚、出産され、育児休業も取得するが、独身時代と同じ働き方はできず、肩身の狭い思いをしながら仕事をつづけた。2人目の出産後、復帰した頃に上司から1級建築士の資格を取得するようにと促され、休日に専門塾へ通い数年かけて合格された。その後、長男の反抗期も経験しながら、仕事で知り合う技術士の仕事ぶりなどが素敵だなと感じることが何度かあり、上司から技術士受験を進められたことがきっかけで、受験に挑み、建設部門で合格された。

女性は環境により頑張れる時期と、頑張るべきでない時期がある、そのため身軽な若い時期に時間や費用を使ってでも自分の経験や知識、周囲の信頼を貯金しておくべきというお話しが印象的であった。また、女性技術者として働くうえでのポイントは大変共感を持てる内容であった。



【正田講師のご講演】

講演③「技術士試験までの取組とこれからの働き方」

山下 香織氏（(株)国土開発センター）

学生時代、社会や地理の分野が好きだったことから大学は土木の分野に進み、比較的興味があった都市計画の募集のあった現在の会社に入社した。

入社してから職場環境が変わらなかったことが、これまで仕事を続けられた一因だと感じている。また、総合職から一般職に転換したことで、仕事と家庭の両立しやすい環境にしてもらったことも理由の一つである。

技術士資格はそれまで遠い存在だと思っていたが、大学時代の友人との話で、今後のステップアップを考えると、もう少し自分自身が何か努力をすべきと共感し話しあったことがきっかけで受験した。ご主人の理解もあり、休日に図書館などで勉強し、1回目の受験（20代）で合格された。現在は、子育てと仕事の両立がはじまったばかりで不安もあるが、

社内での働き方の多様性の一例として後輩の参考になれば、とお話しされた。



【山下講師のご講演】



【全員の集合写真】

3. 意見交換会（グループワーク）

まずは若い方々で2つのグループに分かれ、自己紹介や仕事とプライベートの両立、今後の働き方などについての不安や疑問について話し合ってもらい、その後、技術士の方々を交えて意見交換を行った。



【グループワークの成果】



【グループワークの様子】

技術士資格の取得については、どのように勉強したのか、取得後、具体的にどのような変化があったか、などの質問があった。また、育休後の復帰に不安はなかったのか、時間が限られる中で仕事と家庭のバランスはどのように取っているのかなどの質問があった。それに対し、技術士の方々からは、これまでの経験を踏まえた率直な意見やアドバイスなど、積極的に意見交換がなされ、大変盛り上がっていた。

最後に、若い方からは他社の方と交流が持てたことが良かった、技術士の方の本音の話を聞いて今後、仕事・家庭・資格取得など両立する姿が具体的にイメージできた、色々な人の悩みや話を聞いて刺激になり頑張ろうと思えた、今後は後輩に頑張ってもらえるよう取り組みたい、と前向きな感想があった。

ライフステージにより環境が変化しやすい女性にとって、資格取得や働き方などの考え方やスタンスは男性と異なる点もあり、同じ女性の経験談や意見を直接聞くことは大変有意義であり、今後もこのような機会を開催できればと感じた。

（文責：石川 平澤 由佳）

6. 令和2年度北陸3県内合格者名簿

●令和2年度北陸3県内合格者名簿（官報及び当会で確認できた方のみ掲載：R2.4.30現在）

1) 第二次試験合格者（★当会に連絡のあった方は県名及び勤務先掲載：順不同）◆石川会場での合格者総数：53名

県名	氏名	部門	所属先	県名	氏名	部門	所属先
石川	山村 啓一	建設	㈱日本海コンサルタント	石川	柴田 悠平	建設	㈱日本海コンサルタント
石川	新家 哲平	建設	(株)国土開発センター	石川	横井 勇	応用理学	日本海航測(株)
石川	中野 達也	建設	㈱日本海コンサルタント	福井	東 義博		(株)サンワコン

※下記の方々をご存じの方がおられましたら、当会事務局までご一報いただくと幸いです。

池田 稔	間嶋 伸明	高柳 伸之	下関 祥江	土田 尚	和角 豪太	川口 英幸	浅倉 正人
中川 行男	小林 稜	上道 悟	安本 和幸	久郷真佐美	小林 健一	内堀 伸吾	川島 正樹
森田 信彦	吉田 敬博	河合 勇人	橋本 泰英	森下 和晃	中村 彰宏	坪川 俊行	浜田 崇
戸澤 信吾	浅沼 憲和	山本 隆一	寺井 義則	石田 博衛	石橋 和代	中村 元紀	谷裏 弘晃
岩崎 誠二	城岸 巧	藤井三志郎	野崎 公佑	土佐 貴信	熊野 剛史	真鍋 精章	豊田 丈紫
竹田 知史	前 正人	浅野 治朗	遠藤 謙介	十二 雅和	柏原 宏輔	辻 祐樹	

2) 第一次試験合格者（★当会に連絡のあった方は県名及び勤務先掲載：順不同）◆石川会場での合格者総数：160名

県名	氏名	部門	所属先	県名	氏名	部門	所属先
石川	坪内 悠馬	建設	石川工業高等専門学校	富山	福島 拓哉	機械	㈱不二越
石川	堀田 将暉	建設	㈱日本海コンサルタント	富山	吉本 太一	情報工学	北陸コンピュータ・サービス㈱
石川	宮田 慎也	建設	㈱日本海コンサルタント	福井	切明 勇大	建設	京福コンサルタント㈱

※下記の方々をご存じの方がおられましたら、当会事務局までご一報いただくと幸いです。

河崎 鉄平	中島 幸治	村井 孝行	戸田 雄三	福田 一仁	笹倉 貴子	金山 空	千原 列騎
播磨 勤	腰越 雄太	増田 稜徳	福島 誠	片岡 昭郎	谷川 拓也	山本 尚	山川 真司
洲崎 寿臣	大西 和夫	前田 崇博	奥谷 真士	小谷 周平	平良 優介	滝澤 恒二	林 亮太
坂本 龍介	菊地 理佳	清水 靖博	大平 貴章	蟹谷 望	田治 愛里	竹原 朋治	但田 健治
永原慎之輔	石田 陽平	山口 裕之	橋本 和隆	瀧川 葉月	山田 忠志	佐藤 亮太	天谷 徳弘
中村 颯	中西隆之介	小竹 哲郎	千秋 佳徳	下川 彩	鎌田 俊昭	幅下 大地	高野 薫
橋屋 義一	尾崎 智子	板坂 真斗	村井 舞樺	林 泰志	有松 里奈	西澤 美祐	道下 拓都
今村 哲也	東 陽一	宮下 遥	後藤 加奈	長谷穂乃花	木藤あや音	山内 康寛	南部 嵩治
脇 慎之介	奥山 浩気	若林 昭雄	畦地総太郎	清水 康平	鈴木 雄真	川瀬 勝太	宮下 晟弥
吉田 勁祐	本野 貴史	谷口 利昭	田中 邦明	山田 潤也	遠藤 雅樹	小林 樹奈	川口 祐貴
若林 拓海	富永 昂平	島田 英和	巨椋 裕務	田中 健生	因幡 愛	大浦 史知	疋田 凌麻
五十嵐秀平	秋元 将央	津田 涼子	佐近 悠斗	森田 莞人	室伏 真奈	平川 和希	北村 一貴
今多 一樹	正田 優磨	橋本 莉佳	岩崎 義一	高桑 文香	三田 翔平	高木 陽介	竹澤 滉裕
干場 大樹	原 太郎	田村 秀二	菊地 航	岩崎 晟也	表 慎太郎	及川 晃広	山岸 祥希
瀧渕 秀人	中川 紫織	伊東 悠葵	北原 領磨	竹俣 隆一	山崎 淳	高橋 真菜	岡野 智洋
村越 広隆	田村 隆彦	武田 航輝	水田 陽斗	齋藤 耕	木藤 風音	浅野 未帆	竹口 輝
栗原 彩乃	藤田 覚	小林 隆則	宇多田一世	小森進太郎	林 聖也	阪上 敏彦	古賀 崇晃
宮ヶ丁わか菜	杉木 肇	稻田 辰昭	江頭 郷太	島崎 友祐	阿部 正樹	尾崎 翼	高橋 秀徳
宮下太一郎	栗本 拓也	川尻 賢	脇本 孝俊	伊東 桂一	上嶋 明子	依田琳太郎	花島 裕司
三谷 友翼	仲俣 創生	宗京 則幸	武田 遼真				

7. 令和2年度（2020年度）役員名簿

役職	氏名	県名	部門			所属先	所属先役職
会長	橋本 栄治	福井	建設			前田建設工業(株)	関西支店福井営業所・顧問
副会長	大石 守仁	富山	建設			(株)寺島コンサルタント	参与
副会長	今度 充之	石川	建設	総監		東京コンサルタンツ(株)	取締役北陸支社長
理事(総務委員長)	池田 保裕	福井	建設	総監		(株)ワカサコンサル	福井支店長
理事(総務委員)	岡村 興一	石川	機械	総監		岡村技術士事務所	所長
理事(総務委員)	為沢 剛	福井	農業			(株)帝国コンサルタント	技術顧問
理事(総務委員)	初田 浩也	富山	建設			新和設計(株)	代表取締役
理事(事業委員長) (事務局長)	埴 正浩	石川	建設	総監		(株)日本海コンサルタント	専務取締役
理事(事業委員)	市埜 吉孝	福井	農業			福井農林総合事務所	農村整備部整備保全課長
理事(事業委員)	大江 正道	富山	建設	総監		北電技術コンサルタント(株)	第二土木部長
理事(事業委員)	金子 義幸	石川				高松機械工業(株)	技術部次長
理事(事業委員)	佐渡 正	富山	建設			佐渡技術士事務所	所長
理事(事業委員)	西田 勝幸	富山	建設	総監		北陸電力(株)	土木建築部土木計画チーム統括(課長)
理事(事業委員)	西出 俊亮	福井	建設	総監		福井県庁	福井土木事務所長
理事(事業委員)	山崎 裕生	福井	農業			丸一調査設計(株)	
理事(業務委員長)	竹内 勝信	富山	建設	総監		竹内技術研究所	所長
理事(業務委員)	大深 伸尚	石川	建設			アルスコンサルタンツ(株)	会長
理事(業務委員)	辻 隆治	福井	建設	総監		(株)サンワコン	東京支店東日本本部
理事(業務委員)	野口 将志	石川	建設			(株)ホクコク地水	
理事(事業委員)	森下 正	富山	機械			川田工業(株)	北陸事業部・主幹
理事(姓・許願)	平澤 由佳	石川	農業	総監		(株)国土開発センター	設計事業部設計3部担当部長
理事(姓・許願)	佐々井 忍	富山	建設			共和クレーン(有)	代表取締役
理事(姓・許願)	茅田 照代	福井	環境	建設	農業	(株)北陸環境科学研究所	環境科学部主任研究員
理事(姓・許願)	辰橋 浩二	石川	建設	環境		(株)国土開発センター	環境事業部環境1部担当部長
監事	坂井 正明	福井	上下			環水工房(有)	代表取締役
監事	庄田 浩二	富山	建設	総監		建設技研コンサルタンツ(株)	技術管理者
監事	中野 哲朗	石川	上下	建設	総監	中部地質(株)	副社長
相談役	有澤 良一	富山	建設			(株)アリスワ技術	代表取締役社長
相談役	屋敷 弘	石川	建設	農業	総監	屋敷技術士事務所	所長

8. 令和3年度（2021年度）行事予定（案）

開催予定月日	事業内容
2021年5月29日	北陸技術士試験研究会の協賛 総合技術監理部門受験講習会 ※中止もあり
2021年6月12日	令和3年度総会・特別講演会
2021年6月12日	第一次試験合格者（JABEE含む）ガイダンス（金沢勤労者プラザ）
2021年7月2,3日	技術士会北陸本部 年次大会（新潟）
2021年7月10,11日	技術士第二次試験（石川会場）10日：総監部門、11日：総監以外部門
2021年11月6日	第1回役員会・第1回技術研修会（講習会）（金沢勤労者プラザ）
2020年11月中旬	技術士全国大会（東京） 創立70周年記念大会
2021年11月28日	技術士第一次試験（石川会場）
2022年4月2日	第一次試験合格者（JABEE含む）ガイダンス（金沢勤労者プラザ）
2022年4月2日	第2回役員会・第2回技術研修会（講演会）（金沢勤労者プラザ）
2022年6月11日（予定）	令和3年度新・既技術士交流会（ANAクラウンプラザホテル）

★★ 編集後記 ★★ これまでの「懇談会 会報」は名称を「FIT journal」と改めました！

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、初めて総会はWEB決議となりました。また、技術研修会は、2回ともリアル会場とWEBによるハイブリッド型の開催となりました。この一年で新しい生活様式にも慣れ、マスクの着用や手洗い、3密回避を意識するようになり、テレワークやWEB会議が当たり前となりました。新型コロナウイルスについては、一日でも早く感染拡大が収束することを願うばかりですが、もう暫くこうした生活が続くと思います。北陸技術士懇談会は、今後も新型コロナ対策をして様々な行事を開催してまいりたいと思いますので、ぜひ、多くの会員の皆様にご参加頂ければ幸いです。

【事務局】(株)日本海コンサルタント内 〒921-8042 金沢市泉本町2丁目126番地 TEL076-243-8258
北陸技術士懇談会 HP：<http://www.hokugikon.org/> ※過去の行事資料や写真が掲載されています